

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目A：資料収集・保存

計 画		実 施		検 証		今後の対策		
具体的な取組(事務事業)	評価指標(点検項目)	目標(個別事務事業)	実 績	自己評価	課題・原因			
1 特色あるコレクション(収蔵作品)の形成	・ 美術作品の収集目的	① 自主企画展を計画している青柳喜兵衛や森山安英などの作品・関連資料を購入し、又は寄贈を受ける。	・ 購入・寄贈ではないが、福岡市美術館寄託資料のうち、森山安英に関する資料の長期貸出しを受けた。 ・ 青柳喜兵衛に関する資料を購入した。	目標どおり達成できた。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	新収集方針に基づき、持続可能な収集活動を目指す。
		評価						
		A						
② 既存コレクションを充実するための作品・関連資料を購入し、又は寄贈を受ける。	・ 28年度開催の自主企画展に関連して、岡崎和郎の作品3点を購入した。 また柳原義達作品1点を購入、岡崎和郎、木内克、寺田政明、堀尾貞治の作品計25点の寄贈を受け、既存のコレクションを補完した。							
③ 上記①②に係る対象作家や関係者との対面調査を行う。	・ 展覧会開催の対面調査 18件 ・ 作品・資料等の購入・寄贈の対面調査 5件 ・ その他の対面調査 9件 ・ 青柳喜兵衛展、森山安英展を始め、開催予定の展覧会のため全国各地で綿密な作品調査を行った。 さらに、新鋭作家をとりあげる新企画「guest room」のための作家研究や所蔵作家の調査など、幅広い研究に着手することができた。							
2 コレクション修復事業	・ 保存状態のチェック作品数 ・ 修復作品の数・内容	④ 修復が必要な作品をリスト化し、緊急性の高い作品から1点以上の修復を行う。	・ 作品貸出し及び自主企画展出品作品の調査、収蔵庫改修に伴う調査を行った。延べ4,867点の保存状態をチェックした。 ・ 作品点検結果を元に、修復候補作品リストを作成した。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	昨年並みの作品チェックを行った。 また、30年度の自主企画展に向けて、青柳喜兵衛「婦人座像」等作品3点の修復を行った。	引き続き日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。 また、次年度以降の自主企画展に向けた修復を計画的に進める。
			評価					
A								
・ 修復作品 3点 青柳喜兵衛 「蔬菜図」1935 青柳喜兵衛 「婦人座像」制作年不詳 青柳喜兵衛 『神風連』挿画原画 制作年不詳								
3 コレクションの保全対策	・ IPM導入に向けた取組み	⑤ 本館大規模修繕工事に際して、コレクションを一時保管するアネックス棟の市民ギャラリー等について、虫菌害対策を講じる。工事終了後に本館の全館燻蒸を行う。	・ 収蔵庫改修にともなう燻蒸を2回に分けて行った。本館への作品搬入後はトラップや虫の侵入防止設備を整備するとともに、日常的に点検を行い、IPMを実施した。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	目標どおり達成できた。	
評価								
A								
				<table border="1"> <tr><td>総合評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	総合評価	A		
総合評価								
A								

(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目B：調査研究・展示

計 画		実 施		検 証		今後の対策		
具体的な取組(事務事業)	評価指標(点検項目)	目標(個別事務事業)	実 績	自己評価	課題・原因			
1 コレクションの活用や、自主企画展の開催	<ul style="list-style-type: none"> コレクションの活用 自主企画展の回数、内容 	① 福岡市美術館と共同で所蔵名品展を西日本6会場で開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市美術館との共同巡回展「夢の美術館めぐりあう名画たち」が、28年度沖縄、長崎に続き、熊本県立美術館等全6会場を巡回し、当館の所蔵作品を県外の人々に広く紹介することができた。 	目標どおり達成できた。 <table border="1" style="float: right;"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A		調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。
		評価						
A								
② 青柳喜兵衛展、森山安英展等、自主企画展の開催に向けた調査を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 青柳喜兵衛展、森山安英展に関する調査を全国各地で行った。 							
2 コレクションや作家に関する研究内容について、紀要、図録、冊子、解説カード等にまとめ提供する。	<ul style="list-style-type: none"> 研究論文の公開件数 研究内容に関する図録、冊子、解説カード等の作成状況 	③ 発表媒体を問わず、各学芸員が研究成果を1回以上公開する。	<ul style="list-style-type: none"> 論文等発表件数 15件 口頭発表件数 17件 自主企画展の図録に論文等を発表したほか、共同企画展の図録や外部施設での展覧会図録に論文を掲載するなど、幅広い媒体で研究成果を発表することができた。 また館外で口頭発表を行った。 	ほぼ目標どおりに達成できた。 <table border="1" style="float: right;"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>B</td></tr> </table>	評価	B	件数は多かったが、学芸員全員の発表には至らなかった。	今後も引続き、自主企画展や共同企画展で図録を作成し研究成果の発表を継続する。また、当館発行物に限らず、研究の成果の発表を心がける。
		評価						
B								
④ コレクション展での新鋭作家の招待展示について、冊子を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 冊子「guest room 002 富安由真（不）在の部屋——隠れるものたちの気配」を作成した。 英語版所蔵品選「Masterpieces of the Kitakyushu Municipal Museum of Art 30」も作成した。 							
3 他館と連携した調査研究や共同企画展の推進	<ul style="list-style-type: none"> 他館との連携の成果による展覧会数 	⑤ 鳥取県立博物館等6館と共同企画した「1930年協会展」を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取県立博物館等6館と共同企画した「1930年協会展」を開催した。 	目標どおり達成できた。 <table border="1" style="float: right;"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A		今後も積極的に、共同企画展を実施する。
		評価						
A								
⑥ 福岡市美術館と共同で所蔵名品展を西日本6会場で開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市美術館との共同巡回展「夢の美術館めぐりあう名画たち」が、28年度沖縄、長崎に続き、熊本県立美術館等全6会場を巡回し、当館の所蔵作品を県外の人々に広く紹介することができた。 							
4 企画展等の充実	年間入場者総数 <ul style="list-style-type: none"> 企画展の観覧者数 市民ギャラリー、その他の観覧者数 	⑦ 幅広い作品の展覧会を開催し、多くの市民の来館を目指す。(目標入場者総数 200,000人)	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会を充実させたが、目標入場者総数には届かず、入場者総数は183,887人に留まった。 コレクション展の観覧者数は目標を上回り32,297人であった。 	・本館及びアネックス棟の休館のため、入場者数が減少し、目標には届かなかった。 ・コレクション展の観覧者数は過去最高であった。	休館のため。	自主企画展やコレクション展の充実を図っていくとともに、市民ギャラリーの利用促進を図る。		
		⑧ コレクション展の観覧者数の目標を10,000人とする。						
				総合評価				
(評価) A:大変良い B:概ね良い C:やや悪い D:大変悪い				B				

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目 C : 教育普及・学習支援

計 画		実 施		検 証		今後の対策			
具体的な取組(事務事業)	評価指標(点検項目)	目標(個別事務事業)	実 績	自己評価	課題・原因				
1 小・中学校と連携した学習プログラムの実施	事業参加者数 ・ミュージアム・ツアー(事業名変更) ・館内授業 ・たんけんパスポート利用者	① 市内の小中学校や文化施設と連携した学習プログラムを充実強化し、参加者数の目標を前年度以上とする。	・教育普及事業 小学生美術鑑賞教室参加者 980人 (ミュージアム・ツアー) 館内授業(中学生美術鑑賞教室)参加者 414人 館内授業(その他)参加者 766人 ワークショップ参加者 104人 アウトリーチ参加者 453人 たんけんパスポート利用者 1,185人 合計(前年比271人増) 3,902人	目標どおり達成できた。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A		平成30年度は市内の全小学3年生を対象としたミュージアム・ツアーを本格実施する。 引き続き、たんけんパスポートの利用促進を図る。
		評価							
A									
② ミュージアム・ツアーの実施(小学校19校以上)	再掲 ・ミュージアム・ツアー 18校 980人 (八幡東区、戸畑区のみ) 試行実施								
2 幅広い年代に応じたワークショップや講演会などの教育普及プログラムの実施、成果の公表	・ワークショップ、講演会の回数	③ 幅広い年齢層を対象にしたワークショップや講演会、ギャラリートークなどの教育普及プログラムを20回実施する。	・目標以上の24回の教育普及プログラムを開催した。 講演会 4回 603人 ギャラリートーク 20回 846人 参加者合計 24回 1,449人	目標どおり達成できた。	<table border="1"> <tr><td>評価</td></tr> <tr><td>A</td></tr> </table>	評価	A	子どもから大人まで幅広い年齢層を対象としたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。	
評価									
A									

総合評価
A

(評価) A : 大変良い B : 概ね良い C : やや悪い D : 大変悪い

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目D：市民参画・連携

計画		実施		検証		今後の対策
具体的な取組(事務事業)及び目標(施策)	評価指標(点検項目)	目標(個別事務事業)	実績	自己評価	課題・原因	
1 ボランティア活動の見直し及び体制整備に向けた検討	・ 制度見直しに向けた他都市調査や検討状況	① 休館に伴いボランティア活動を一時休止し、他都市の制度を調査するなど制度見直し及び体制整備に向けた検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座講師候補との打合せ 1回 ・H28年度の他館訪問の実績等を踏まえ、ボランティア活動体制整備のための、具体的な資料作成を行った。 	目標どおり達成できた。	評価	
					A	
2 文化施設との交流・連携	・ 文化施設との連携事業の実施状況	② 市内文化施設と連携して、「北九州ミュージアムウィーク」を実施する。	・ 5月6日(土)～21日(日)実施	目標どおり達成できた。	評価	
		③ 北九州芸術劇場と連携し当館コレクションを活用した演劇公演を実施する。	・ 北九州芸術劇場と連携して、当館所蔵のヤノベケンジの作品を活用した演劇公演「10万年の寝言」を開催した。		A	
		④ 北九州国際音楽祭と連携し、展覧会と関連したロビーコンサートを行う。	・ 11月6日に「アートミュージアム・コンサート～田部京子(ピアノ)を迎えて」を開催した。			
		⑤ 近隣美術館等との交流・連携を図る。	・ 「夢の美術館展」 福岡市美術館と共同で開催し、熊本市、久留米市、宮崎市、松江市において開催した。			
					総合評価	
(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い					A	

北九州市立美術館運営評価シート

評価項目E：広報、情報発信

計 画		実 施		検 証		今後の対策				
具体的な取組（事務事業）	評価指標（点検項目）	目標（個別事務事業）	実 績	自己評価	課題・原因					
<p>展覧会、ワークショップなどの美術館事業の成果を情報発信</p>	<p>美術館事業の情報発信状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへの掲載状況 ・広報誌への掲載状況 	<p>① 展覧会、ワークショップの成果など、美術館の活動についてホームページや印刷物等を活用して情報発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで、展覧会の状況や、ワークショップの開催案内などを随時発信。 29年度アクセス件数 321,154件（1日平均880件） ・『北九州の芸術文化情報マガジン「Cu1Cu1・かるかる」』や友の会会報誌『森の小径』において、ワークショップの成果や報告などを発信。 ・フェイスブック、ツイッターや特設ホームページの開設により展覧会情報を発信。 	<p>目標どおり達成できた。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>					
					<p>多様な広報媒体を活用した展覧会のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報誌、マスコミに取り上げられた回数 ・テレビCMや屋外ビジョンの活用状況 		<p>② 展覧会について、ポスターやチラシの作成、ホームページ、新聞広告、情報誌などに掲載する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会が新聞、雑誌等に取り上げられた件数：547件 ・『Cu1Cu1』へ毎月1回学芸員による展覧会及び作品紹介等を掲載。また、『森の小径』や市政だより等により広報。 	<p>目標どおり達成できた。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>
										<p>③ 企画展について視聴覚に訴える展覧会のPR強化策として、テレビCM及び新聞紙面の積極的な活用。</p>
	<p>④ 展覧会の特徴に応じたターゲットを絞り、若年層に向けてはSNSを活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・facebookによる情報発信 1930年協会展 ・ツイッターによる情報発信 広重ビビット展、ターナー展 	<p>目標どおり達成できた。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>						
				<p>総合評価</p> <p>A</p>						

(評価) A：大変良い B：概ね良い C：やや悪い D：大変悪い

展覧会等の傾向や予想される観客層等を分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。
また、外国人向けの広報も充実させる。